日の出の森・支える会ニュース
2022.8
No.48

「日の出の森・支える会」は、東京都西多摩郡日の出町にある巨大な処分場が引き起こした環境汚染から、自分たちの生命・健康を守るとともに、ごみ問題の真の解決を願って立ち上がった地元住民運動を支援することを目的として、1994 年に発足しました。

米軍横田基地の深刻な環境問題-3

有機フッ素化合物による水質汚染

日の出の森・支える会副代表　　大沢ゆたか

私は米軍基地の環境問題に関して、2017 年と 2019 年にこのニュースに書いています。

5 年前（2017 年）のニュースには、過去に米軍横田基地で航空機燃料流出事故があったことを記し、一方では沖縄嘉手納基地でダイオキシンを含むドラム缶処理に関する調査や汚染除去にかかった経費約 10 億円を日本政府が負担したが、それは「日米地位協定」の定めで「米軍に原状回復や補償の義務を負わない」不平等条約あるからだと書きました。

2 年前（2019 年）のニュースには、米軍基地の泡消火剤流出やジェット燃料流出事故があったが日本政府には通報されないことと、沖縄での河川や浄水場から有機フッ素化合物（PFOS,PFPA）が検出され、それが米軍基地由来ではないかと見られていることを書きました。

今回 3 度目の米軍基地の環境汚染を書きます。これまでの記事より 10 数年も前の 2002 年に、京都大学の小泉昭夫教授（当時）が多摩川中流域の昭島市にある「多摩川上流水再生センター」の放流口の水から 440ng/L の PFOS を検出したということが分かったことです。

また、東京都も 2003 年から多摩川の PFOS 汚染や水道水の汚染を調べ始めていたということも分かりました。2008 年には、多摩川の水質汚染源を電子部品製造業、機械器具製造業と横田基地の 3 個所ではないかと推定していたようです。さらには、PFOS 汚染は多摩川に留まらず、多摩地域の地下水の一部が高度に汚染させられていることも判明しました。2020 年 1 月 6 日と 8 日の朝日新聞では、立川市内と武蔵村山市内の井戸から高濃度の汚染水を検出したことや、東京都の水道局が府中市、国立市、国分寺市の 3 市の浄水場の一部からの地下水の汲み上げを中止したことが報じられました。

2020 年 8 月には NPO「ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議」が汚染濃度が高かった水道水を使用していた多摩地域の住民の血液検査を行い、PFOS が日本人の平均の 1.5 倍～2 倍であったという結果を発表しました。これらの化学物質は環境中で分解されることがほとんどないようで、血液検査などで体内への蓄積量が分かるとされています。さらに、今後は「多摩地域の有機フッ素化合物汚染を明らかにする会（準備会）」が血液検査の協力者の募集を始めました。数百人規模の人数で 11 月以降に自治体ごとに進めるそうです。（連絡先参照 5 ページ）

こうした結果を基に横田基地などへ環境調査を申し入れることも必要です。米軍基地はこれまで「日米地位協定」をもって立ち入り調査を拒否したり、秘密にしたりしてきました。周辺住民が健康に生きるためにも、2015 年に追加された「環境補足協定」を活かして基地内の環境調査が出来るような取り組みを行って欲しいと思います。

【連絡先】〒190-0011 東京都立川市高松町 2-19-1　　Tel/Fax 042-523-7297
ホームページ： http://hinodenomori.main.jp　　E-mail： hinodenomori@tokyo.email.ne.jp